



皇學館

第33号

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600
大学 大学院・専攻科・文学部・教育学部・
現代日本社会学部・社会福祉学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704
高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138
【高校】〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
【中学】〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

●今号の注目記事

- 1面 教育講演会を開催
講師◆葛西敬之氏
大御心に胸熱く、心に復興を誓う—皇居勤労奉仕—
- 2面 宗林名誉教授が瑞宝中綬章を受章
- 3面 学びの現場から「伝統の心と技」
- 4・5面 学生編集ページ
参拝見学記
- 6面 高校・中学
県総体・予選大会 など
- 8面 第50回 寮祭開催
- 連載
2面 お仕事拝見 **NEW!**
(伊勢市役所職員によるリレーエッセイ)
皇學館人物列伝⑭ 北岡四良
- 7面 先輩、お元気ですか
南 英雄氏
(国文学科第9期・昭和49年卒)



現在の日本の危機的状況を乗り越えるためには本質を見誤ることなく、世論を牽引するリーダーシップが必要と語る葛西氏

会場は満席となり、県内外から約八百名が参加した

清水潔学長の挨拶に続き壇上に立った葛西敬之氏。講演では、国鉄の分割民営化など数々の困難を乗り越ってきた鉄道人

七月十一日、名古屋駅前のウインクあいち愛知産業労働センターにおいて本学客員教授で東海旅客鉄道株式会社代表取締役会長の葛西敬之氏が講演を行った。演題は「日本が必要とするリーダーシップ」。時宜を得たテーマでもあり、定員八〇一名の会場がほぼ満員となる大盛況であった。

生を振り返り、平時と非常時におけるリーダーシップの違いについて「①大戦略の提起、②企画・立案、③統率・実行というリ

「リーダーシップに必要な三要素の中で、地図のない道を行かなければならない変革の時代には①の大局を見て長期を展望できる資質がとくに求められる」と語った。そして、日本を近代国家に作り変えた明治維新を成功例、戦争へと突入する原因を作った近衛内閣を失敗例に挙げ、「リーダーシップが弱く大衆に迎合すると国

の弱体化、衰退化を招く。民に従うのではなく、民を導くのがリーダーの務め」と示唆に富む発言をしていた。その上で混迷を極める復興対応や原発問題に触れ、「東日本大震災後の国難を乗り越えるためには、国政を指導する強い真のリーダーシップが必要。日本には今、原発アレルギーが拡がっているが、量・質・コストを鑑みると原子力の代替エネルギーは存在しえない。ポピュリズムに流されることなく現実を直視し、リスクを見据えながら安全対策を強化し、人知と努力を尽くしてリスクをマネジメントしていくことが肝要だ」と持論を展開した。また、原発問題については「事故の収束と賠償、安定的な電力供給の両方を一つの企業が行うのは不可能。東京電力の活力を失わせないと

皇學館大学 教育講演会 変革期のリーダー像を語る

講師◆葛西敬之氏 (東海旅客鉄道株式会社代表取締役会長・本学客員教授)

大御心に胸熱く、心に復興を誓う 帰宅難民となり、皇居に宿泊させていただく 皇居勤労奉仕



震災前日に撮影された皇居での写真

学生有志による「皇居勤労奉仕団」が三月八日から十一日までの四日間、勤労奉仕を行った。参加した団員は二十名。最終日に奇しくも東日本大震災に遭遇したことで、生忘れられない日になったようだ。

その時の様子を、団長を務めた国史学科三年の柴田晃治郎君は次のように語る。

「天皇・皇后両陛下より

御会釈と労いの御言葉を賜った後、賜物の伝達式に参加するため宮内庁庁舎に向かいました。伝達式直前に凄まじい地震が聞こえ地震の発生を知りました。大学へ連絡しようにも携帯電話がなかなか通じません。そんな中、両陛下の特別な申し召しにより、皇居内の窓明館で一泊させていただけることになったのです。

夕刻には両陛下が奉仕団員の体調を御心配くださっていることを伝え聞いた。翌十二日早朝には皇后陛下が御みずから窓明館へ御越しください、「大丈夫ですか」「体調が悪い方はいらっしやいませんか」と御言葉をかけてくださったばかりか、体調を崩し宮内庁病院へ入院させていただいていた女子団員に御見舞いを賜ったという。

「この貴重な体験を心に刻むとともに、ありがたい皇室を戴く日本人としてこれからの復興に貢献したい」と語る柴田君。両陛下の温かい御心配りに触れ、その思いを一層強くしたようだ。



「われわれ学生にまで細やかな御心配りを賜る大御心に胸が熱くなりました」と柴田君

うな再建策を用いるべき」とし、スリーマイル島原発事故の際にアメリカがとった対策を例に挙げながら「廃炉の処理と賠償問題は国が行い、電力供給は東京電力が行う、というように責任の所在

をはっきりさせることが重要。明確な目標を与えられてこそ、人や組織は活性化されるものだ。東京電力を日本経済や国民生活のために安定的な電力供給ができる活力ある企業に再生させてこそ、原発事故による国民負担は最小化する」と現実的な解決策を提示した。

会場には愛知県内のサラリーマンを中心に約八百名が聴講に訪れた。国鉄民営化を成し遂げた実績を持つ葛西氏の体験的リーダー論に、熱心にメモをとる姿が多く見られた。

名古屋市内の会社に勤めるという五十代の男性は「リーダーシップに必要な資質についてよく理解できた」と語った。三十代の女性は「具体例を挙げて説明されていたのでわかりやすかった。歴史は繰り返すと思った」と感想を話していた。

先日、就任早々の大臣が辞任した。被災者の心を傷つける発言の責任をとってのもだった。人を励まし勇気づけるのは言葉であるが、人の心を傷つけ落胆させるのも言葉である。その人の言葉もさることながら、態度も被災者の気持ちに寄り添っているようには見えなかった。気持ちは態度にも表れるのである▼昨年話題になった詩集、柴田トヨさんの白寿の処女詩集『くじけないで』は、本欄(第29号)でも取り上げられた。新聞に投稿した詩が選者の目に留まり、詩集にまでなったのである。プロの詩人ではない。平易な言葉であるが、その詩が人々に感動を与える。その理由は、作者の感性もあるのだが、誠実に人生を歩んできた姿勢が詩に投影されているからであろう▼東日本大震災後、テレビで金子みすゞや宮澤章二の詩の一節が多く流され話題になった。日頃、詩に縁がないと感じていた人でも、詩を身近に感じたことであろう。最後に、宮澤の「行為の意味」の一節を引用しておこう。「確かにへこころはだれにも見えないけれどへこころづかいは見えるのだそれは 人に対する積極的な行為だから」。

節電にご協力を!

東日本大震災による発電設備の被災に続き、浜岡原子力発電所の停止により今夏の電力供給が厳しくなる予想されています。本学におきましても、前年度使用量の十五%減を目標に節電行動計画を策定し、照明や空調設備の使用時間短縮など電力削減に努めております。実施にあたっては教職員・学生ならびに関係各位のご不便、ご迷惑をおかけしますが、ご理解と協力をお願い致します。

倉田山 春秋

先日、就任早々の大臣が辞任した。被災者の心を傷つける発言の責任をとってのもだった。人を励まし勇気づけるのは言葉であるが、人の心を傷つけ落胆させるのも言葉である。その人の言葉もさることながら、態度も被災者の気持ちに寄り添っているようには見えなかった。気持ちは態度にも表れるのである▼昨年話題になった詩集、柴田トヨさんの白寿の処女詩集『くじけないで』は、本欄(第29号)でも取り上げられた。新聞に投稿した詩が選者の目に留まり、詩集にまでなったのである。プロの詩人ではない。平易な言葉であるが、その詩が人々に感動を与える。その理由は、作者の感性もあるのだが、誠実に人生を歩んできた姿勢が詩に投影されているからであろう▼東日本大震災後、テレビで金子みすゞや宮澤章二の詩の一節が多く流され話題になった。日頃、詩に縁がないと感じていた人でも、詩を身近に感じたことであろう。最後に、宮澤の「行為の意味」の一節を引用しておこう。「確かにへこころはだれにも見えないけれどへこころづかいは見えるのだそれは 人に対する積極的な行為だから」。

アブラムシ研究に五十年

宗林名誉教授が瑞宝中綬章を受章

さまざまな分野で功績があった人に贈られる春の叙勲(四月二十九日付発令)で、本学の宗林正人名誉教授が瑞宝中綬章を受章した。宗林先生はアブラムシの生態学・分類学における世界的研究者。約五十年に及ぶ研究活動の中で六十三種に及

ぶ新種の発見や分類、標本の作成などで大きな成果を上げた。受賞について、「このような名誉な章をいただけるとは思ってもよらなかった」と謙虚に喜びを語る。

一九二六年生まれ。高校の生物教師をしていた昭和三十九年(一九六六)に本学に奉職。研究分野を分類学に転向し、過

去十年に集めた資料をもとにアブラムシの分類整理に取り組んだ。また、特別に許可をいただき伊勢神宮の神域や宮域林の学術調査にも着手。多くの新種の発見や生態に関する新発見につながった。アブラムシは害虫ではあっても、憎むべき存在ではない。根絶やしにすれば彼らを捕食している

る虫や鳥もいなくなる。つまり、人間と同じく、自然サイクルを支える生命体の一つなんです。」

研究生活の傍ら、学内では寮監や学生部長、文芸部長として教育指導に従事。また、図書館長や神道博物館長など要職を歴任し、本学の発展に多大な貢献をされた。教職をめざす学生には「自分で飼育してみるとアブラムシの繁殖力や自然がいかにうまく仕組みになっ

ているか、驚かされる。体験を通して学んだ知識や技術は机上で得たそれよりもずっと深く、教えられる側にとっても心に残るだろう。教壇に立つ前に、実際に自分でいろいろなることを経験してほしい」とエールを送る。

平成十三年、研究の集大成ともいえる五三九種七六三六枚の標本をフランス・パリにある国立自然史博物館へ寄贈した。昨年八月に常務理事の任期を満了した現在、アブラムシの研究に専念したいと話し、「できる限り長く研究生活を続けて標本の作成に取り掛かりたい」と意欲を語った。

この活動は、「思い出戻し隊・みえ」という名称でみえ災害ボランティア支援センターが県内各地のボランティアの協力を得ながら活動してきたもの。伊勢市ではいせ市民活動センターが拠点となっていた。

今回は本学の学生にたくさん参加してもらおうと、いせ市民活動センターと皇學館大学ボランティアチームが協力し、場所を本学に移して実施された。写真はみえ災害ボランティア支援センターが岩手県山田町から預かったもので、ボランティアに参加した学生たちは結婚式の写真や卒業アルバム、家族の何気ない日常など大切な思い出が詰まった写真を一枚一枚水で泥を落とし、乾かす作業を進めた。



勲章を胸にかけ、喜びを語る宗林先生。春の叙勲伝達式は6月27日に執り行われた。

職歴(抜粋)	と(84歳)
昭和47年	皇學館大学教授
昭和52年	皇學館大学学生部長兼任
昭和55年	皇學館大学文学部長兼任
平成6年	皇學館大学神道博物館長
平成9年	皇學館大学附属図書館長
平成12年	皇學館大学名誉教授・評議員・理事・常任理事
平成17年	皇學館大学常務理事(平成22年8月任期満了)

お仕事拝見

学生の視点に期待

皇學館大学と伊勢市は、お互いの関係を強化し、文化・教育・学術等の分野で相互に機能向上を図るとともに、地域の活性化と人材の育成を図ることを目的として平成二十年七月十一日に連携協定を締結しました。

今までの主な取り組みとしては、伊勢市が行う計画策定へ教授や准教授の方々が有識者として参加していただいたり、学生による「市役所見学」「市長トークinキャンパス」「環境ミーティング」大学

生と語る伊勢の環境、「教育支援ボランティア活動」教員志望の学生の活躍などが、今後もそれぞれの特性を活かし、さまざまなプロジェクトを展開していく予定です。

伊勢に住まわれている方はもちろん、伊勢を訪れる方にとっても、愛着や誇りの持てるまち(伊勢市)となるように、皇學館大学の皆さまのお力をお借りしながら、又、学生の視点での意見もいたいただきながら、よりよいまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

「縁」ではないかと思えます。伊勢というまちを舞台に様々な貴重な経験をしていただき、卒業された方にも、伊勢はいままだよ」と友人に自慢してもらえそうな魅力あるまちにしていきたいと思っております。

伊勢に生まれたい方はもちろん、伊勢を訪れる方にとっても、愛着や誇りの持てるまち(伊勢市)となるように、皇學館大学の皆さまのお力をお借りしながら、又、学生の視点での意見もいたいただきながら、よりよいまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

伊勢に生まれたい方はもちろん、伊勢を訪れる方にとっても、愛着や誇りの持てるまち(伊勢市)となるように、皇學館大学の皆さまのお力をお借りしながら、又、学生の視点での意見もいたいただきながら、よりよいまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

伊勢に生まれたい方はもちろん、伊勢を訪れる方にとっても、愛着や誇りの持てるまち(伊勢市)となるように、皇學館大学の皆さまのお力をお借りしながら、又、学生の視点での意見もいたいただきながら、よりよいまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

伊勢に生まれたい方はもちろん、伊勢を訪れる方にとっても、愛着や誇りの持てるまち(伊勢市)となるように、皇學館大学の皆さまのお力をお借りしながら、又、学生の視点での意見もいたいただきながら、よりよいまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。



伊勢市役所情報戦略局 行政経営課 大西要一課長

皇學館大学と伊勢市は、お互いの関係を強化し、文化・教育・学術等の分野で相互に機能向上を図るとともに、地域の活性化と人材の育成を図ることを目的として平成二十年七月十一日に連携協定を締結しました。

今までの主な取り組みとしては、伊勢市が行う計画策定へ教授や准教授の方々が有識者として参加していただいたり、学生による「市役所見学」「市長トークinキャンパス」「環境ミーティング」大学

生と語る伊勢の環境、「教育支援ボランティア活動」教員志望の学生の活躍などが、今後もそれぞれの特性を活かし、さまざまなプロジェクトを展開していく予定です。

伊勢に住まわれている方はもちろん、伊勢を訪れる方にとっても、愛着や誇りの持てるまち(伊勢市)となるように、皇學館大学の皆さまのお力をお借りしながら、又、学生の視点での意見もいたいただきながら、よりよいまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

伊勢に生まれたい方はもちろん、伊勢を訪れる方にとっても、愛着や誇りの持てるまち(伊勢市)となるように、皇學館大学の皆さまのお力をお借りしながら、又、学生の視点での意見もいたいただきながら、よりよいまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

伊勢に生まれたい方はもちろん、伊勢を訪れる方にとっても、愛着や誇りの持てるまち(伊勢市)となるように、皇學館大学の皆さまのお力をお借りしながら、又、学生の視点での意見もいたいただきながら、よりよいまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

伊勢に生まれたい方はもちろん、伊勢を訪れる方にとっても、愛着や誇りの持てるまち(伊勢市)となるように、皇學館大学の皆さまのお力をお借りしながら、又、学生の視点での意見もいたいただきながら、よりよいまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

伊勢に生まれたい方はもちろん、伊勢を訪れる方にとっても、愛着や誇りの持てるまち(伊勢市)となるように、皇學館大学の皆さまのお力をお借りしながら、又、学生の視点での意見もいたいただきながら、よりよいまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

皇學館 人物列伝 14

北岡四良

きたおか しろう

皇學館女子短期大学の創設に尽力

皇學館大学附属図書館に「北岡四良文庫」がある。谷川士清をはじめとする国学関係の和本を中心に構成されている。この旧蔵者が北岡四良

その人である。遺言に「蔵書一切附属図書館に寄贈すべし」とあったことによるが、廃学以来再興に至るまでに刊行された国学関係のものも多く含み、本学にとって欠落の十七年を補う重要な図書群である。

北岡の専門は国語学で、特に谷川士清とその女婿である蓬萊尚賢の研究や三重県方言の研究は有名である。三重県方言の記述的研究をめざした『三重県方言資料集』は志摩・伊賀・南勢の各篇が刊行されたが、卒業論文は脱稿したものの未刊行に終わった。この資料集は『日本国語大辞典』の方言項目の資料としても用いられている。現在に至るまで活用されている。

北岡は三重県立宇治山田中学校を卒業後、神宮皇學館に進む。皇學館



きたおか しろう ◆昭和十年神宮皇學館本科卒業。各地の高等学校で教鞭をとった。昭和三十八年皇學館大学へ赴任。教育学科の前身となった短期大学創設に尽力した。谷川士清、蓬萊尚賢の研究や三重県方言の研究で知られる。遺稿集に『近世国学者の研究』がある。大正二(一九一三)年〜昭和五十二(一九七七年)。

北岡は三重県立宇治山田中学校を卒業後、神宮皇學館に進む。皇學館

では国漢を専攻する第一部で学び、昭和十年本科卒業。さらに研究科を経て神宮文庫司書となった。当時の神宮文庫は神宮皇學館長の所管で将来を嘱望された者が司書に就いた。ついで、昭和十四年の大阪府立阿倍野高等女子学校教諭を皮切りに静岡や三重県内で教鞭をとった。阿倍野高等女子学校に赴任した後は後任の文庫司書を西川順士(後、皇學館大学史料編纂所教授)が固辞したために着任が遅れたという逸話も残っている。また、西宮一民(後、皇學館大学長)が「北岡先生が、論文は書くことで考えがまとまる、と言われた。自分と同じだと思っても嬉しかった」と学生に語っているが、西宮ほどの学者もあこがれた先輩だったのである。

昭和三十八年、皇學館大学教務課長兼皇學館高等学校主事として母館・皇學館大学に帰った。高等学校の設置や昭和四十一年の皇學館女子短期大学(後、皇學館短期大学)の創設に尽力し、助教・教授を歴任した。この短期大学の陣容をみると神宮皇學館関係者が多いことが知られる。神宮皇學館の同期生に「われわれが神宮皇學館で学んだ史学と違ったやりかたをする人がいるので、いささか寂しいと語ったときがあるが、北岡のもつ神宮皇學館の学の影響、それは司馬遼太郎が神宮皇學館の卒業生にもつ印象である「江戸中期の日本的な人文学の思考法の合理的な部分をうけついでいる」「街道をゆく吉岐・対馬の道」(こと)も重なる。北岡はその継承を短期大学に構想していたのかもしれない。しかし、短期大学を発展的に解消させて文学部に教育学科を設置することとなり、昭和五十一年、北岡は短期大学廃学に伴って国文学科へ移籍している。酒豪でも知られ、「酔泣き」するまで飲んだとされるが、昭和五十二年六月、六十四歳で生涯を閉じた。

文学部准教授 齋藤 平

シリーズ学びの現場からI 伝統の心と技

本学では平成二十年度より講義「伝統の心と技」をカリキュラムに取り入れている。目的は日本の伝統文化に触れ、そこに込められた「心と技」の真意を学ぶこと。実際にどのような授業が行われているのか、シリーズで紹介する。

雅楽

講師 ● 飛驒大富先生

実技を通して伝統芸能を体感

我が国が誇る伝統文化のひとつ、雅楽。本講義では雅楽器のなかでもとくに龍笛を選び、演奏法や雅楽の歴史、意義などを学ぶ。



飛驒講師は日本の伝統文化に対する理解を雅楽の見地から深めようと解説を加え、学生は熱心に取り組んでいる。時折り、本講義では雅楽の歴史、意義などを学ぶ。

心に耳を傾けていた。現代日本社会学科一年の南部恵利佳さんは「リコーダーと似たものかと思っていたが、必要とされる肺活量が多いため、驚いた様子。音符のない譜面も初めて見たと言いつつ、口伝によって受け継がれてきた雅楽の歴史に思いを込めていた。

マナー

講師 ● 堀田明美先生

作法に込められた意味を知る

礼儀作法の本質は、相手手を尊重し思いやる気持ちと、具体的な行為として表したものだ。本講義では、作法やエチケットの修得を魅力的な人間をめざすための「不可欠な学び」と位置付け、学生が日々応用し、実践することを目的としている。今回の授業前半では元キャビンアテンダントの堀田明美講師が和食卓作法について説明。豆を別の皿に移す作法を通して箸の正しい持ち方を教えた。懐石料理の手ほどきをした。後半にはテーブルセッティングをしてレストランさながらの雰囲気を出した。実際に男女二人の学生をモデルにエスコートや着席の方法、ナプキンの使い方など、洋食テーブルマナーについて解説した。



洋食のテーブルマナーについて指導する堀田講師。モデルとなった学生たちは緊張しながらも、懸命にこなしていた。

平成二十三年度 夢の会 総会及び役員会報告

五月十四日に平成二十三年度夢の会役員会、翌十五日に総会が開催されたので、その概要を報告する。

●夢の会役員会

十四日、午後二時より伊勢シティホテルにおいて、夢の会会長並びに清水潔学長の挨拶により役員会が開催され、全国からお集まりいただいた役員二十七名、参加でもあ

●夢の会総会

十五日、皇學館大学記念講堂において、文学部会員一五名、社会福祉学部会員二一名、教育学部会員一六名、現代日本社会学部会員三十一名及び大学教職員七十九名の出席のもと、午前九時三十分より総会が開催

された。議事については次の通り審議され、盛会のうちに閉会となった。

【議事】

- (一)平成二十二年行事事業報告及び決算について
- (二)平成二十三年度役員選出(案)について
- (三)平成二十三年行事事業計画(案)及び予算(案)について
- (四)諸規程の一部変更につ

平成二十三年度 夢の会役員名簿(敬称略)				
役職名	氏名	学生名	学科	学年
会長	北島清博	慈人	神道	四
副会長	小田谷拓也	美緒	社福	四
	柴田俊一	智紀	教育	三
	中村誠	晃治郎	国史	三
	山中幹也	侑衣	教育	三
会計監査	那知子	現日	二	

いて、(五)その他、大学の現況報告など

議事(一)については原案通り承認され、(二)は後載の方々が新役員に選任された。(三)は平成二十三年度行事事業計画及び予算が承認された。(四)は夢の会会則及び諸規程について大学事務組織の改編に伴い一部変更された。(五)については特になし。

伴五十嗣郎氏 名誉教授に就任

六月十七日、本学において名誉教授就任式が執り行われた。就任したのは伴五十嗣郎文学部神道学科特別教授と掛本勲夫教育学部教育学科客員教授の二名。

伴教授は昭和十八年生まれ。神道神学を中心に、本学教授として二十二年

間、わたり教鞭をとった。学内の役職としては、学生部長や文学部長を歴任。平成十五年四月から同二十三年三月に至るまで学長を務めた。また、松平春嶽を主に近世神道思想の研究に尽力。その成果をシンポジウムや講演会で発表し、第六十一

回式年遷宮にあたっては「伊勢神宮の総合的研究」に取り組まれるなど国内の神道研究者を代表する業績と存在を示してきた。その功績は学外でも高く評価され、安政の大獄で短い生涯を終えた幕末の先覚・橋本景岳(左内)の「啓発録」を中心とした書簡・意見書等の訳注が講談社学術文庫に収録されている。掛本教授は昭和二十年生まれ。東京教育大学教

育学科を卒業後、同大学院教育学研究科博士課程を単位取得により満期退学。その後、筑波大学講師などを経て昭和五十八年に本学に奉職された。平成二十年には教育学部設置に伴い初代学部長に就任。本学着任以来二十

九年目となる平成二十三年四月からは客員教授となり、学部運営に尽力された。研究面においては、とくに明治前期の教育制度・政策を対象に日本教育史研究の進展に寄与。その真摯な研究姿勢と穏やかな人柄に惹かれてか先生のゼミには毎年多くの学生が集まり、ユニークな観点から教育を歴史的に研究する卒業論文が数多く生まれた。名誉教授就任にあたり両氏には引き続き学生の指導にあたっていただくことになり、今後のさらなる活躍が期待される。



伴五十嗣郎教授



掛本勲夫教授



佐古一洸理事長より任命状を受け取る伴教授

育学科を卒業後、同大学院教育学研究科博士課程を単位取得により満期退学。その後、筑波大学講師などを経て昭和五十八年に本学に奉職された。平成二十年には教育学部設置に伴い初代学部長に就任。本学着任以来二十

九年目となる平成二十三年四月からは客員教授となり、学部運営に尽力された。研究面においては、とくに明治前期の教育制度・政策を対象に日本教育史研究の進展に寄与。その真摯な研究姿勢と穏やかな人柄に惹かれてか先生のゼミには毎年多くの学生が集まり、ユニークな観点から教育を歴史的に研究する卒業論文が数多く生まれた。名誉教授就任にあたり両氏には引き続き学生の指導にあたっていただくことになり、今後のさらなる活躍が期待される。

3年

神宮ゆかりの名所を訪ねる

日本三大御田植祭のひとつが執り行われる皇大神宮の別宮・伊雑宮や重要な御料である鰯の調製所など、神宮の御贄処を中心をめぐる。

目的地

伊雑宮
御料鰯調製所
金剛證寺



下上
御料鰯調製所
金剛證寺



時の流れに 思いを馳せて

コミュニケーション学科3年 川島大嗣



参拝見学で3年生は志摩方面へと向かった。伊雑宮、国崎の御料鰯調製所、最後に朝熊山にある金剛證寺を訪れた。その中で、最も印象に残ったのが金剛證寺である。

金剛證寺は伊勢神宮の鬼門を守る寺として知られている。江戸時代には「伊勢に参らば朝熊をかけよ、朝熊かけねば片参り」という言葉があったそうだ。

奥まで続く境内を歩いてゆくと、左

右に高さ2メートルは優に超える卒塔婆が、所狭しと並んでいる。岩には鮮やかな緑色をした苔が生い茂っており、時の流れを感じずにはいられなかった。見上げれば万華鏡のように美しい木漏れ日が、そよ風と共に、この舞台で共演している。時間さえ許せば、もう少しその静寂の中に、身を置いていたかった。今度は一人でじっくりと、この雰囲気味わいたいと思った。

歴史の深さを学んだ

社会福祉学部3年 草谷知昌



名張学舎ではキャンパス・セミナーで地域のお祭りや町並みを見て周ることで、名張の地域を知る勉強をしてきた。今回は、伊勢学舎での初めての参

拝見学だ。
まず、伊雑宮に参拝。次いで国崎にある御料鰯調製所に行き、熨斗鰯づくりを見学。伊勢神宮に納める熨斗鰯を薄く削いでいく光景に、2000年の伝統を感じることができた。昼食は鳥羽展望台から眺めるきれいな景色の中で友達と楽しくお弁当を食べることができた。最後の金剛證寺では、林立する卒塔婆に出会った。この地域では人が亡くなるとその霊魂が1週間かけて朝熊山に登り、ふもとの人々を見守るといふ言い伝えがあると聞いた。

今回の参拝見学を通して歴史の深さを学ぶことができ、さまざまな場所が関係していることで伊勢神宮があると実感できた。この機会がなければ知ることができない貴重な経験となった。

4年

先人、偉人の足跡をたどる

戦没者をお祀りする三重県護国神社や郷土が生んだ偉人、国学者・本居宣長や北海道の名付け親として有名な松浦武四郎の記念館へ赴き、足跡をたどる。

A…神道、国文、国史、コミュ、教育

三重県護国神社
結城神社
松浦武四郎記念館

B…社会福祉

神服織機殿神社
本居宣長記念館
松浦武四郎記念館

今の平和は 先人あってこそ

神道学科 川北愛子



参拝見学では結城神社、三重県護国神社、松浦武四郎記念館に行った。その中で一番印象に残っているのは三重県護国神社だ。ここには戦争で亡くなった三重県出身者が6万300柱お祀りされている。私は、自分と同じ三重県出身者だけでこんなに多くいると知り驚いた。ここには私の先祖はお祀りされていないが、先祖の親戚や友人、知り合いだった方がお祀りされているかもしれない。その方々の遺品や手紙などを実際に見学させて頂き、とても心に響くものがあった。私たちが今平和で豊かに暮らしているのはお祀りされている方々のおかげだと思う。本当に感謝しなければならないと思った。

戦争は、 まだ終わっていない

教育学科 木村紗理



文学部・教育学部4年生は松浦武四郎記念館と結城神社、三重県護国神社を訪れた。その中で特に印象に残ったのは、三重県護国神社だ。ポツダム宣言受諾から今年で66年経つが、海外で

戦死し、未だに遺骨が日本に還ってこない方がいる。戦死した家族に会えない方もいる。遺骨収集に取り組み、戦死者を日本に還そうという活動を行っている方がいる。そういったことを今回の参拝見学で知って、戦争は本当の意味ではまだ終わっていないのではないかと考えるようになった。

専攻科

目的地

奈良・京都方面

奉職について 思索を深めた2日間

神道学専攻科 宮部弘陽



専攻科の参拝見学は5月7日、8日に担任の井後先生の引率で実施された。昨年に続き奈良・京都方面で、1日目の奈良県は大神神社・橿原神宮と神武天皇陵・春日大社を巡り、2日目は京都を中心として八坂神社・松尾大社・賀茂御祖神社(下鴨神社)・滋賀県の日吉大社を訪れた。各神社の皆様



橿原神宮

は熱心にご説明をいただき、各神社の成り立ちや雰囲気の違いがとても鮮明になり大変勉強になった。今回参加した神道学専攻科一同も、神様への崇敬の心や、神職として活躍されておられる先輩方を前にして神社への奉職について改めて深く考えるきっかけとなり、とても有意義な2日間であった。



三重県護国神社

クローズアップゼミ 研究室探訪12



教育学科 教授

中村哲夫ゼミ

体育・スポーツ史ゼミは体育やスポーツを歴史的に研究していこうとするゼミです。私自身現在、1930年代のオリンピックを中心とする国際スポーツの動向を調査・検討しています。第2次世界大戦を挟んで、スポーツの世界的な発展の推移を検討するための作業になります。

ゼミの現場を学生諸君により理解してもらうために、以下、現4年生の卒業研究を紹介します。学生にとっては、やはり、自らが経験してきたスポーツに関心があるようです。

武道系では柔道の創始者である嘉

納治五郎の柔道思想や講道館柔道の成立過程、柔道の国際化の経緯について、柔道経験者がそれぞれ解明に取り組んでいます。弓道をしていた学生は弓の歴史の変遷を、大相撲の八百長問題に関心を示した学生は神

体育・スポーツを歴史的に研究

事・興行・スポーツの3つの観点から大相撲のあり方を研究しています。

球技系ではひとつの企業内バレーボールチームが東京オリンピックで金メダルを取るまでの経緯とそれが日本社会に与えた影響について、ま

た、大正4年に始まった高校野球の甲子園大会に注目しそれぞれの時代において甲子園大会がどのように意味づけられてきたのかを研究する学生もいます。ほか、サッカーのルールの変遷とそれがもたらす戦術やシステムの関係、ほとんどのスポーツが抑制・禁止された戦時中、同盟国ドイツ発祥のハンドボールだけが優遇され、日独ハンドボール交流が進められた経緯の解明など、テーマはさまざま。

以上のように、体育やスポーツを歴史的な眼で検討することが、本ゼミの特徴となります。

参拝見学記

本学では全学年において神宮にゆかりのある場所や神社を訪ねる参拝見学を毎年行っている。学年別に4コースが設定され、今年は5月13日に実施された。目的地を初めて訪ねる学生も多く、みな有意義な一日を過ごしたようだ。



1年

王朝ロマンの香りに包まれて

1年生がたどったのは倭姫宮や斎宮跡など王朝ロマンあふれるコース。展示品の数々を通して往時の様子や時代背景、雅な文化に触れることができる。

神宮の奥深さを体感

国史学科 南部珠奈



斎宮歴史博物館では、斎王の復元模型や群行の様子、輿など展示品の数々を見て、平安の世のことが甦ってくるようだった。

中でも印象的なのは、後朱雀天皇の皇女、良子内親王がわずか10歳で斎王



斎宮歴史博物館

に選ばれたことだが、神道や仏教などのあり方が大きく変化した時代背景から考えてみると、若くして任じられることもいたしかたなかったのであろう。

また、天皇から「別れの小櫛」をさしていただき、良子内親王が内裏を退出する時のシーンが非常に印象的で、重大な使命を負わされたということが分かる。さらに、近江から伊勢国に至る5泊6日の旅の中で、かつぎ手がふらつき、斎王の乗った輿が揺れてしまうことや、鈴鹿の頓宮で何も用意されて

いなかったことなど、様々なハプニングがあり、苦難の群行だったことが映像から窺えた。改めて、平安時代の斎宮制度の流れを十分理解することができた。

他にも、神宮徴古館や神宮農業館では御装束神宝や天皇が宮中の田で作った稲の束など、展示品を実際に目で見なければ感じることができない体験をし、大きな刺激となった。神宮の奥深いところを感じることができた。

今回の参拝見学での学習が今後さらに発展できるように努力したい。

目的地

倭姫宮
神宮徴古館・神宮農業館
斎宮跡・斎宮歴史博物館
神麻績機殿神社



倭姫宮

他にも、神宮徴古館や神宮農業館では御装束神宝や天皇が宮中の田で作った稲の束など、展示品を実際に目で見なければ感じることができない体験をし、大きな刺激となった。神宮の奥深いところを感じることができた。

今回の参拝見学での学習が今後さらに発展できるように努力したい。

今回の参拝見学での学習が今後さらに発展できるように努力したい。

伊勢の歴史、文化を学ぶ

教育学科 安城直輝



私は鈴鹿市民なので伊勢のことは全く知らなかったが、倭姫宮を訪れ、伊

勢神宮がどれほどの歴史を持ち大切にされてきたのかを肌で感じることができた。徴古館では天照大神が日本国民の総氏神であることや、天皇親祭・風日祈祭などの祭事について、農業館では日本の稲作の歴史、斎宮では古代から中世の皇族に仕えていた女性・斎王の存在を初めて知った。入学前には知らないことばかりだったが、今回の参拝見学で少しながらも知識が増えた。これからも少しずつ伊勢の歴史、文化を学び、家族や友人と伊勢を訪れた際、歴史や文化を教えられるくらいの知識を身につけたいと思う。

2年

神杉の木立に囲まれ癒しの時を過ごす

静寂に包まれた長い参道が、心を穏やかにする瀧原宮。水銀鉱山の町の富裕さを彷彿させる古刹・丹生大師。どちらも信心深い人々が集う、ひなびた山里だ。

目的地

瀧原宮
丹生神社・神宮寺



瀧原宮

美しい自然と静けさに心洗われた

国文学科 伊藤美有



お天気に恵まれた5月13日、私たちは参拝見学に出かけた。今回の行き先は、瀧原宮と丹生神社・神宮寺である。

どちらも、名前は知っていたが訪れたことはなかったので、今回の参拝見学を以前から楽しみにしていた。

瀧原宮は木に囲まれた参道を進み、川添いの御手洗場で身を清めた。神域は厳かで大勢の学生がいるのにもかかわらず川のほうからは河鹿蛙の声も聞こえ

た。また、御敷地には御船倉があるのに驚いた。この御船倉は水運と関係があるとのことであった。

つぎに向かった丹生神社・神宮寺は多気町丹生にある。丹は水銀のことでそれを産出することから丹生の名があるという。神仏習合時代の名残で丹生大師と隣接しているため、美しい鯉が泳ぐ池などもあり、境内は広く感じられた。

どちらも私の想像より自然に囲まれた環境にあって美しく、静けさに心が洗われるような印象を受けた参拝見学であった。

気が引き締め、心が洗練

現代日本社会学科 山中那知子



5月13日、私たち2年生は瀧原宮と丹生神社・神宮寺を訪れた。



丹生神社

瀧原宮は皇大神宮の別宮だ。私自身、瀧原宮には幼い頃から何回も参拝に行っているため伊勢神宮と関係があることは昔から知っていたが、改めて瀧原宮を歩いてみて、やはり伊勢の外宮や内宮の雰囲気とどこか似ていると感じられた。

丹生神社・神宮寺のある丹生は、水銀を産出する土地であった。水銀は古い時代から魔除けに用いられ、防腐などの目的で塗るために使われていたようだ。

参拝をするたび、気が引き締め、心が洗練されたように感じた。

皇學館高等学校

平成24年度 生徒募集要項

Table with 10 rows and 2 columns: 募集定員, 入学資格, 出願期間, 出願手続, 入学検査, 合格発表, 入学手続, 学費, 特典, 推薦および特別奨学生について



優勝したバドミントン部

皇學館高校からは男子バレーボール部、柔道部個人(81キ級)、男女バドミントン部団体と男子ダブルスが優勝、同バドミントン部男子シングルと女子ダブルスが準優勝し、全

平成二十三年全国高等学校総合体育大会の三重県予選大会が五月二十七日から三十日の四日間、県内各地で開催された。

皇學館パワーが炸裂 県総体・予選大会

国総体への切符を手にした。また、男子バスケットボール部、柔道部団体、弓道部女子団体、剣道部個人、陸上競技

部(女子4×100R他)が東海総体へ駒を進めた。その他、男女バドミントン部(ダブルス)、柔道部個人(73キ級・100キ級)、薙刀部、弓道部個人が県大会入賞を果たした。

部活動の活性化に期待 校友会総会開催

五月二十一日、全校生徒が体育館に集合し、校友会総会が開催された。

平成二十三年度の会計報告を行うにあたり、重点を置いたのは校友会費の支出。中でも生徒派遣費は突出しており、校友会費の大部分を占めている。高い部活動加入率がある原因と考えられるが、それは同時に各々が功績を残していることの表れでもある。



盛會裡に終了した校友会総会

今回の会計報告の内容は誇れるものであり、来年度のより一層の活躍を期待している。

総務委員長 中谷賢司

皇中 NEWS

皇高 NEWS



カヤックに乗って海上散歩。あちらこちらから歓声が上がっていた。

一年生は志摩自然学校でのシーカヤック体験をし、無人島まで各自ペアとなりシーカヤックを漕いで全身で自然と触れ合うことができた。二年生は信楽陶芸村で陶芸を体験し、様々な趣向を凝らして作品を作り上げていた。三年生は平城宮見学。第二次大極殿の玉座から見た景色の美しさ

生徒と共に成長

平成二十三年 教育実習

六月六日から三週間わたりに教育実習が実施された。今年度は国語、理科、英語、体育の四名での実習となった。

最初は緊張のためか表情も硬く生徒との距離もあったが、部活動や休み時間など授業以外でも関わっていくうちに肩の力も抜け、笑顔で接し

各学年とも充実した一日に

平成二十三年 フィールドワーク

六月二十八日にフィールドワークが実施された。五月の予定が台風のため延期となったのだが、今回は晴天に恵まれた。

一年生は志摩自然学校でのシーカヤック体験をし、無人島まで各自ペアとなりシーカヤックを漕いで全身で自然と触れ合うことができた。二年生は信楽陶芸村で陶芸を体験し、様々な趣向を凝らして作品を作り上げていた。三年生は平城宮見学。第二次大極殿の玉座から見た景色の美しさ

各学年とも充実した一日を過ごすことができた。



笑顔に包まれた最終日の終礼

皇學館中学校

平成24年度 生徒募集要項

Table with 10 rows and 2 columns: 募集人員, 入学資格, 出願書類, 出願期間, 出願方法, 試験日時, 試験教科, 合否発表, 合格者登校日, 入学手続, 学費, 特別奨学生制度

皇學館高等学校創立50周年・皇學館中学校創立35周年記念事業寄付金進捗状況

Table with 4 columns: 区分, 申込件数, 申込金額(円), 納入金額(円)

七月七日現在の募金状況は次の通りです。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業 寄付者芳名

- 一般(旧教職員・篤志家等) 西村真一郎様 三重県 十万円
同窓会会員 橋本 浩一様 三重県 一万五千元(五千円増額)
橋本 直実様 五千元
橋本 晴男様 五千元
出口 晴男様 五千元

学校説明会

日時 9月4日(日) 午前9:30より(11:30終了)
場所 本校セミナーホール および各教室

第32回 皇中祭

開催日 11月5日(土)・6日(日)
入学を希望する小学生と保護者に公開いたします。

寮生の絆深まる

第50回 寮祭開催



余興では、1年生が練習を重ねたダンスや寸劇を披露し、熱気に包まれた

七月三日、精華寮・貞明寮の寮祭が開催された。寮祭は、精華寮男子寮・貞明寮(女子寮)同士の交流とともに、新入生と二年生、また新入生同士が互いに親睦を深めることを目的として行われている。寮生による寮生のための催しだ。寮の生活のなかでは一年で最大のイベントであり、今年で五十回を迎える伝統



「フリースタイル」でAKB48のダンスを披露した寮生3班のメンバー

今年も例年通り、フィルムの上映、一年生による班別の余興、立食パーティー、ダンスなど、盛りだくさんの内容が丸一日かけて行われた。これらすべての運営を担当したのは寮生の二年生。タイムスケジュールを決める記録係、一年生による余興を仕切る班別混合のパートに分かれ、五月初旬から何度も打ち合わせを重ねてきた。「各パートや男子寮との連携が大変でした」と貞明寮の幹事を務めた国文学科の内野美貴子さん。また精華寮の幹事を務めた教育学

科の山田将士君は「昨年は楽しむ方でしたが運営する側になって、先輩の偉大さに気づきました」と語る。

一方、寮生の一年生は、参加する側として、プログラムの中の余興で活躍。余興には一年生の男女混合の班で発表する「班別余興」、同じ寮内での有志で構成する「フリースタイル」の二つあり、ダンスや寸劇などバラエティに富んだ内容で盛り上げた。

AKB48の曲に合わせたダンスを披露した文学部神道学科の馬屋原真悠さんは「みんなの予定を合わせるが大変で、練習は夜十時からでした。一カ月前からはほぼ毎日取り組みました」と語るが、練習するなかで寮の仲間と仲良くなったのがよかったという。

学校の授業や寮の当番、バイトなど忙しい合間を縫って寮祭に取り組みことで、ともに生活する仲間との絆がグッと強まったようだ。

ボールをつなげて一体に

春学期・球技大会



懸命に一つのボールを追いつながるたびに大きな歓声が沸きあがった

梅雨明けの夏本番を迎えた七月十日、体育館×インアリーナで春学期の球技大会が開催された。学部やクラブ、寮などの仲間に参加した学生八チームと教職員一チーム、計九チームがソフトバレーボールに汗を流した。運営を担う学生会が「ルールをしっかりと守って盛り上がっていきましよう」と呼びかけ始まった大会は、まず三チーム

がコートにあふれた。この春、名張学舎から移転した社会福祉学科四年の西村千明さんは友人同士で参加したといい、「今まで名張学舎でも参加していましたが、初めて伊勢学舎の人たちと一緒にできて良かったです。みんなでボールをつなげてチームが一体になって楽しい」と話した。学友会総務委員長を務めるコミュニケーション学科三年の坂徳人君は「応援が沸きあがる。決格的なスパイクの応酬が続く一位リーグから、山なりのボールが飛びかう三位リーグまで暑気に負けない熱戦が繰り広げられ、爽やかな笑顔

がコートにあふれた。この春、名張学舎から移転した社会福祉学科四年の西村千明さんは友人同士で参加したといい、「今まで名張学舎でも参加していましたが、初めて伊勢学舎の人たちと一緒にできて良かったです。みんなでボールをつなげてチームが一体になって楽しい」と話した。学友会総務委員長を務めるコミュニケーション学科三年の坂徳人君は「応援が沸きあがる。決格的なスパイクの応酬が続く一位リーグから、山なりのボールが飛びかう三位リーグまで暑気に負けない熱戦が繰り広げられ、爽やかな笑顔



友人と参加した西村千明さんと、学友会の坂徳人君

教職員人事

- 【旧職】
 - 法人本部事務局総務部係長 辻 敏晴
 - 法人本部事務局総務部係長 辻 敏晴
 - 法人本部事務局企画部主任 東浦百合子
 - 法人本部事務局企画部主任 東浦百合子
 - 法人本部事務局総務部係長 小津かおり
 - 法人本部事務局総務部係長 小津かおり
 - 法人本部事務局総務部主任 川合 一禎
 - 法人本部事務局総務部主任 川合 一禎
 - 法人本部事務局総務部主任 齋藤 愛美
 - 法人本部事務局総務部主任 齋藤 愛美
- 【新職】
 - 法人本部事務局総務部主任 齋藤 愛美
 - 法人本部事務局総務部主任 齋藤 愛美

学風を肌で実感

オープンキャンパス

本学で何を学び、どんな学生生活を送るのか、高校生たちが体験するオープンキャンパス「このころの小路ツアー2011」が六月十二日・十七日に催された。未来の自分に出会う小さな



現代日本社会学科[NIPPONを動かそう会議]での1コマ

旅」というコンセプトのもと、各学科・コースの説明会や個別相談、入試説明会、学食体験、キャンパスツアー、学生寮見学など多彩な催しを繰り広げた。特に、教員と学生ボランティアが協力して行った各学科の体験プログラムには、大勢の高校生が参加。神道学科では「なごりり神道教室(着付け体験)」を行い、神職の装束を着た高校生たちが学生たちから礼儀作法を学んだ。現代日本社会学科では、教員と学生、高校

生たちが日本の未来をさまざまなテーマ毎に語り合う「NIPPONを動かそう会議」を開催。「地域を知らなければ福祉はできない」などと語る学生たちと接した高校生からは「教職員と学生たちが協力し合い、親身になってくれる皇學館の校風に惹かれた」として福祉を勉強したい」といった感

8月 イベント情報(8~9月)

- 6日 遷宮記念講演会 函館市中央図書館 伊勢の神宮と天照大神・伴五十嗣郎 文学部教授
- 20日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 神道と仏教「神仏分離の諸相② 神仏分離令とその全国への波及」河野訓 文学部教授
- 27日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 特別公開講座「折口信夫と神道」半田美永 文学部教授

9月

- 3日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 特別公開講座「棋津国一宮の住吉大社と和泉国の諸大社」井後政晏 文学部教授
- 4日 史料編纂所 第19回 公開講座 234教室 日本書紀・古事記の世界③ 事前申込みが必要(先着順) 1.「阿弥陀仏の話—『日本書紀』の仏教伝来記事—」遠藤慶太 史料編纂所准教授 2.古事記の崩年干支について 荊木美行 史料編纂所教授 3.雄略天皇紀と伊勢国 岡田登 文学部教授・史料編纂所長
- 10日 月例文化講座 431教室 西洋音楽黎明期における子どもの歌 錦かよ子 教育学部教授
- 17日 史料編纂所古文書講座 712教室 「中世文書を読む」前編* 岡野友彦 文学部教授
- 24日 史料編纂所古文書講座 711教室 「中世文書を読む」後編* 岡野友彦 文学部教授 *いずれも聴講無料、事前申込みは不要

講演会開催のお知らせ

伴五十嗣郎先生 退任記念講演会
神道学科・神道学会 共催

「生祠—神に祀られた人々—」

日時◆11月18日(金) 16:30~18:00
場所◆皇學館大学 4号館 431教室

聴講無料◆事前申込み不要

【問合せ先】神道学科研究室 ☎0596-22-6455

編集後記

◆七月十一日にウイックあいちで開催された通算五回目の本学教育講演会では、過去最大の約八百名の来場者をお迎えし、盛況のうちに終了できました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。本学教育講演会では、本学のさまざまな行事を紙面に紹介するのはもちろんのこと、学生の皆さんのクラブ・課外活動、ボランティア活動など、学内外を問わず幅広く紹介していきますので、タイムリーな情報提供をkaku@ogakkan-u.ac.jpまでお願いします。【企画部】

生たちが日本の未来をさまざまなテーマ毎に語り合う「NIPPONを動かそう会議」を開催。「地域を知らなければ福祉はできない」などと語る学生たちと接した高校生からは「教職員と学生たちが協力し合い、親身になってくれる皇學館の校風に惹かれた」として福祉を勉強したい」といった感も催される予定だ。